

きらり人

遠州夢咲牛の品質を追求し続ける

すずき
鈴木

まさき
雅樹

さん



PROFILE すずき・まさき (42: 下朝比奈)
鈴木牧場の3代目経営者。JA遠州夢咲肉牛委員会メンバー。約700頭の牛を飼育している。

近畿東海北陸制した 遠州夢咲牛

第57回近畿東海北陸連合肉牛共進会と第84回静岡県畜産共進会(肉牛の部)で、御前崎市の鈴木牧場が出品したブランド肉牛「遠州夢咲牛」が、いずれも最優秀賞に輝いた。共進会は、生産者の日々の改良成果と次世代を託せる素材の選抜と展示をすることで、今後の和牛改良の方向性を明示するために開かれている。近畿東海北陸の共進会は、松阪や近江など全国でも知名度の高い有名産地からの肉牛も顔を揃える。全国屈指の激戦区だ。そんな中での栄誉だった。経営者の鈴木雅樹さんは「2つの共進会ともいつかは一番になりたいと思っていました。受賞を目標に餌の研究や日々の飼育に取り組んできました。ダブル受賞できて本当にうれいすね。松阪や近江といった歴史ある産地よりも高評価をいただいたことは自信にもなりました」と目を細める。

おいしさは 努力のたまもの

遠州夢咲牛は平成14年に正式ブランド化された。「夢咲牛はま

だ歴史が浅くて、共進会に出品して有名産地と品質などを競つても、ネームバリューとか過去の実績でなかなか一番になれないんですよ。誰が見ても『遠州夢咲牛が1番』と言われるくらい肉牛を育てようと、仲間たちと努力してきました」と鈴木さんは話す。夢咲牛は市内外での知名度が上がり、人気も上昇中。こうしたおいしさや品質に対する向上心が消費者の舌を魅了しているのだ。

喜んでもらえる 肉牛作りに励む

「飼育は、牛をいかに心地よく過ごさせてあげるかが大事」と話す。朝晩欠かさず一頭一頭の体調にも気を配っているという。「今以上に肉質を良くするため、研究をしています。今後、消費者の皆さんにおいしいと喜んでもらえるような肉牛を作ります」と抱負を語った。

